

人生 100 年時代・人工知能時代を生きる子どもたちのために ～教育の変革と挑戦～

社会が変わる!

加速度的に変化する複雑で多様な社会の到来

昭和・平成時代の方程式

- 学校は与えられた正解のある課題に対して速く正確に答えを出し覚える
- 子どもは入試のために知識を詰め込む
- 会社の言うことを従順に確実にこなす勤労者



- いい高校・いい大学に入れば
- 大企業・安定した職業に就けば
- 定年まで1つの所で働ける

令和時代では

人生 100 年
これまでにあった仕事がなくなり、
新たに仕事生まれてくるスピードが速い
起業や転職が珍しくない時代



介護ロボット



外国の方とともに



ドローン宅配



無人走行バス



遠隔診療

人口減少社会

AI と IoT ・ロボットと共生する時代

多様なニーズ

子どもたちは、「様々なひずみ」「個人では解決困難な課題」にあふれる社会を生きていく

エネルギー

貧困

知識偏重の学力では
立ち行かない



SDGs (持続可能な開発目標) で示す課題の例

自ら課題を発見し、必要な情報を収集し
他者と協働・対話しながら課題を解決し、
新たな価値を見出す力が必要

福祉

平和

気候変動

環境

学校教育を変える!

目的・目標は原則不変(教育基本法)

その実現のために求められる力や教育方法が変わる

第3期教育振興基本計画より

- 解決すべき課題を発見する力
- 生涯にわたって学び続ける力
- 他者との協働・対話を通じて、折り合いを付け、地域や社会の課題解決の道筋を切り拓く力

自立

協働

創造

OECD Education2030 プロジェクトより

新たな価値を創造する力

責任ある行動をとる力

対立とジレンマの調整力

批判的・創造的思考力

課題発見力

コミュニケーション力

適応力

好奇心

など

2020 年学習指導要領より

- 「何を教えるか」だけではない

- 「何ができるようになるか」という視点

「生きて働く知識・技能」
「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」
「学びを社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」

- 「どのように学ぶか」という視点

「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業

求められる力の変化がすでに現実化

2020 年大学入試が変わる

- 「思考・判断・表現する力」を問う出題
- 「主体性・多様性・協働性」を問う出題
 - ・グループ討論・面接などを通して、**目的意識の高い学生**を獲得する
- 大学入学共通テスト
 - ・**記述問題の出題**
 - ・英語4技能『聞く・読む・話す・書く』の出題

全国学力調査の出題

- 「思考・判断・表現する力」を問う出題
 - ・複数の文章や図の提示から、必要な情報を抽出し、組み合わせる出題
 - ・日常生活の課題に対応する出題
 - ・学校での課題解決の授業を想定した出題

求められる力の小・中学生に対するメッセージ これらに対応した桑名の教育をいかに創造していくか：裏面へ



子どもたちの9年間の学びと育ちをつなぐ

桑名市の小中一貫教育



「夢を持ち、その夢に向かって努力する子の育成」に向けて

桑名市小中一貫教育の目的

子どもたち一人一人に社会を生き抜くための確かな力を育成するため、中学校ブロックの教職員が協働し、指導の系統性や連続性を大切に教育を進める。

▷「めざす子ども像の設定」

子どもの実態と、「求められる力」の国や世界の潮流を考慮して設定し、小・中学校の取組の一本化を図る。

授業の主役は子ども 教師は子どもの学びをつなぐファシリテーター

▷「授業改善」

教師が教える「teaching」から子どもが学ぶ「learning」へ

主体的・対話的で深い学びのある授業

子どもが自ら課題に向かおうとしている
子ども同士の学び合いによる思考がある
個々の子どもが自らの考えを広げ深めている

評定のためだけでない評価

- *一人一人の子どもの学習の状況を把握
→指導の改善
- *授業中の学びの状況を評価し適切な支援を実施
- *子どもの学習改善に向けて努力を促す
- *単元テスト、定期テストのあり方の検証
- *教科横断的なカリキュラムマネジメントの推進

▷「ICTの効果的活用」

タブレット活用で

- *子どもの学習意欲向上
- *子どもの考えを瞬時にみえる化
- *問題解決場面での協働作業
- *教科書記載のQRコードの積極活用



▷「探究活動の充実」

- *総合的な学習の時間や特別活動を中心として、自ら課題を見つけ、課題解決に向けて粘り強く考え、判断し成果を表現する活動

▷「行事のあり方」

- *子どもたちの何を育てたいかを考えた自主的、実践的な活動の場や意欲の尊重

▷「家庭学習」

- *各自の必要性に応じた「あり方」の整理
- *「やらされる学習」から「主体的に学ぶ」とする学習へ

自立した個人としての充実した人生

伝統・文化の継承・創造

他者との協働によるよりよい社会づくりへの貢献

「何のために」目的の明確化

▷取組①「小学校高学年を中心とした教科担任制の導入」

- *複数教員の眼で子どもを観る
- *担当教科減による教材研究の効率化
- *系統性、専門性を生かした授業展開
- *同基準評価
- *小・中学校間の円滑な接続

チームで対応 学校教育を変える＝働き方改革

マンパワーの最大活用

- *多面的、見落としのない視点
- *スピード（観察→分析→行動）
- *総勤務時間縮減と教育水準向上の両立

▷取組②「小中学校間の英語科接続の強化」

- *9年間カリキュラム「桑名市英語教育プラン」の活用
- *実際に英語を使用して互いの考えを伝え合う意味のあるやり取りを通じた言語活動指導
- *小学校の内容を踏まえた中学校での指導のあり方の再構築

▷取組④「特別支援教育」 途切れのない支援

- *小中間での確実な情報共有と支援の連携
- *特別な支援を必要とする子ども一人一人に応じた適切な指導・支援の学び合い
- *各校内支援体制の充実および関係機関等との連携

▷取組⑤「子どもたちの自治活動」 生徒会・児童会等の連携

- *学校や地域をよりよくするための自治的な活動を支援する。
- *子どもたちの多様な体験活動の機会を充実し、自らの課題を乗り越え、他者と協働して何かを成し遂げる力を育成する。

取組例 いじめをなくす取り組み
SNSの取り扱い方を考える
地域花いっぱい運動 等

▷取組③「生徒指導」 制約でなく一人一人の個性を伸ばす視点へ

- *小中間で必要な情報の確実な共有
- *いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応等、対応のあり方を共有、相談
- *SC・SSW・SHP等と連携した対応

▷取組⑥「保護者・地域との連携」

- *コミュニティ・スクールを核とした地域連携の推進



生涯にわたって学び続ける基礎力の育成

すべての教育の基盤となる人権教育